

公認スポーツ指導者養成講習会

受講ガイド

【バドミントン競技】

公益財団法人日本バドミントン協会

■公認指導者養成制度について

平成 12 年 9 月に文部省（現文部科学省）は、スポーツ振興基本計画で次の 3 つの方策を策定しました。

1. 生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備

国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。

生涯スポーツ社会実現のため、できるだけ早期に、成人の週 1 回のスポーツ実施率が 50%となることを目指す。

2. 我が国の国際競技力の総合的な向上方策

我が国のメダル獲得数が 1996 年のオリンピックで 1.7%まで低下していることを踏まえ、諸施策を総合的・効果的に推進し、早期にメダル獲得数が倍増し、3.5%となることを目指す。

3. 生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携推進方策

豊かなスポーツライフの実現と国際競技力の向上を目指し、生涯スポーツ・競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進

これを受けて日本体育協会は、生涯スポーツ社会の実現を目指し、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を構築するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成することを基本コンセプトとして、2005 年度より新指導者養成制度を実施することになりました。日本体育協会は「望ましい公認スポーツ指導者像」を、日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに、「仲間と楽しく行いたい」、「うまくなりたい、強くなりたい」さらに「健康になりたい、長生きしたい」という欲求に応えられるよう、その実現に向けて「サポート」するという役割を持つとしています。

日本体育協会に加盟する日本バドミントン協会も新指導者養成制度の目的を基に、新しい指導者養成制度の実施を決定しました。さらに資質の高い指導者の養成と一貫指導体制の確立を目指します。普及と強化は密接に結びついてます。バドミントンへの参加者が増えなければ、強化は実を結びません。高いバドミントンの競技力を持つことは、バドミントンへの参加者を増やします。公認指導者は普及が強化につながるよう活動することが望まれます。

■望まれるバドミントンの指導者像

次の 2 つの言葉を胸に深く刻み込みましょう。

OPEN MIND（心を開こう）

ALL for PLAYERS（すべてはプレーヤーのために）

その上で、日本バドミントン協会が進める一貫指導体制を支える新しい指導者の資質として次の三つの基準が要求されます。

1. 指導能力は、国際的水準を目指すことを根底に置く【一貫指導の方向性】
2. 指導内容は、個人的・経験的な考えに拘束されたものであってはならない【理念や指針を根拠】
3. 指導課題は、できるだけ発展的・段階的な要素に分割可能であり、評価可能であるように構成する【競技者の水準や課題を明示】

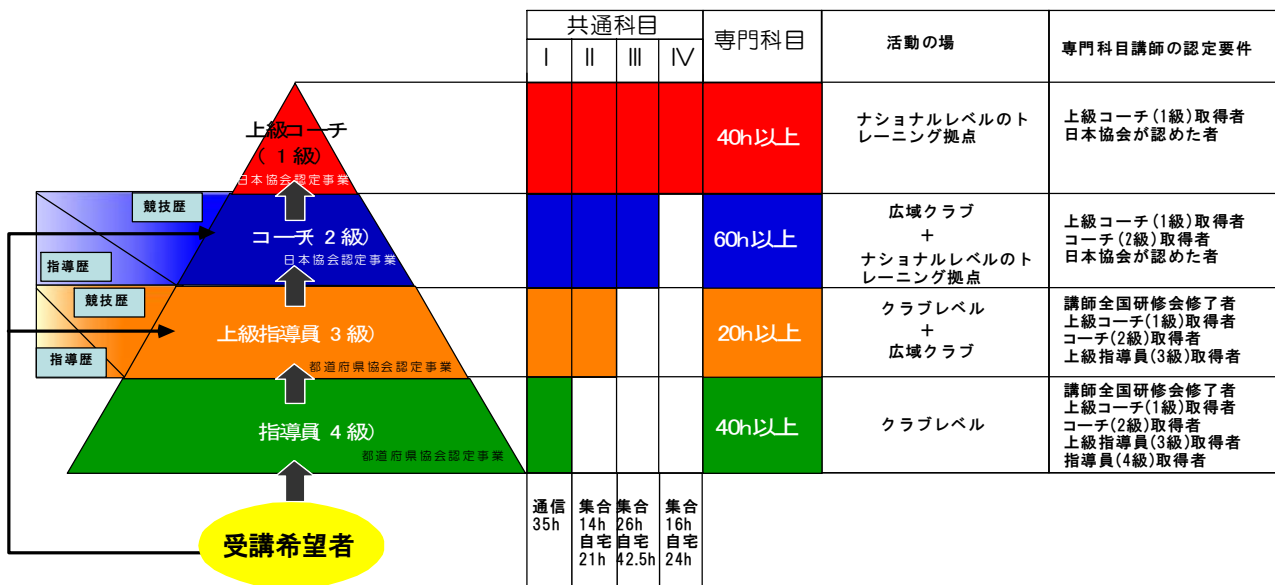
指導者養成講習会では、この 3 つの基準を常に受講生に要求します。

■一貫指導体制

一貫指導体制は、「ジュニア期からトップレベルに至るまで一貫した理念に基づき最適の指導を行う」ことです。一貫指導体制では、指導するプレーヤーがどのような年齢カテゴリーでも、どのような競技レベルでも、指導者が一貫したコンセプトを共有していることが必要です。一貫指導体制を構築することによって、質の高い指導者によって、いつでも、どこでも同じ指導が受けられること、発育発達段階に合った最適な指導が行われることによりバドミントンに参加する意義を見出し、競技力が向上します。

■公認指導者の分類、役割、共通・専門科目などについて

日本バドミントン協会では、4段階の資格で構築される新指導者養成制度を策定しました。バドミントンではそれぞれの資格を、図のように1級・2級・3級・4級と呼びます。



共通科目実施方法

- 共通科目 I : 日本体育協会において実施
- 共通科目 II : 日本体育協会において実施
- 共通科目 III : 日本体育協会において実施
- 共通科目 IV : 日本体育協会において実施

専門科目実施方法

- バドミントン上級コーチ(1級) : 日本バドミントン協会において計画、実施
- バドミントンコーチ(2級) : 日本バドミントン協会において計画、実施
- バドミントン上級指導員(3級) : 都道府県バドミントン協会において計画、実施
- バドミントン指導員(4級) : 都道府県バドミントン協会において計画、実施

(公財) 日本バドミントン協会 公認スポーツ指導者養成専門科目講習会実施要領

資格の名称	<u>公認バドミントン指導員(バドミントン4級)</u>
養成目的	地域のバドミントンクラブ、地域スポーツクラブ、小・中・高校の部活動などにおいて、ジュニアや初心者や子どもたちを対象にバドミントン競技の基礎的指導にあたる指導者を養成する。
役割	競技者育成プログラムを元に、発育発達期のジュニアあるいは初心者に対し、様々な運動経験を通した身体づくりと動きづくりを主眼においた指導にあたるとともに、バドミントンの技術などの指導も行う。
受講条件	受講年度の4月1日現在18歳以上で、本協会公認審判員資格(3級以上)の取得者あるいは取得予定者で、スポーツクラブ等においてバドミントン競技の指導にあたっている者。またはこれまでにバドミントンの競技歴を有し、これから指導者になろうとする者。 <u>(免除条件はなし)</u>
カリキュラム	集合32h, 通信講習10h 計42h(詳細別紙カリキュラム表)
講習会の実施方法	カリキュラム(42時間)に基づき、都道府県バドミントン協会を主管として集合講習会と通信講習により開催する。実際の実施計画については都道府県バドミントン協会と都道府県体育協会とで相談の上、日本体育協会と本協会の承認を得て実施する。
検定試験の作成及び実施方法	検定試験は本協会普及指導開発部が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定によって総合判定する。
合格者の判定方法	合格者の判定は、検定試験の総合判定結果をもとに、本協会普及指導開発部が審査の上、原則として満点の6割以上を合格とする。
登録料(4年間)	14,000円(初回登録料のみプラス3,000円)
更新のための義務研修	資格登録有効期限4年間のうちに、(公財)日本バドミントン協会が定める研修を1回以上受講しなければならない。
担当委員会	(公財)日本バドミントン協会 普及指導開発部

資格の名称	<u>公認バドミントン上級指導員(バドミントン3級)</u>
養成目的	地域のバドミントンクラブや地域スポーツクラブにおいて、年齢・競技レベルに応じた指導にあたるとともに、スポーツ教室などの企画立案に参画できる指導者を養成する。
役割	競技者育成プログラムを元に、年齢・競技レベルに応じた指導にあたるとともに、地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室や各種イベントの事業計画の立案に参画する。また、バドミントン指導員の育成指導にあたる。
受講条件	受講年度の4月1日現在22歳以上で、本協会公認審判員資格(3級以上)の取得者あるいは取得予定者で、下記1)、2)のいずれかに該当する者で、スポーツクラブ等において中心的な役割を担っている者。またはこれから中心的な役割を担う者。 1) 公認バドミントン指導員(バドミントン4級)資格取得者 2) 各種全国大会出場の競技成績を持つ者もしくは全国大会出場選手を直接指導した実績のある者 <u>(免除条件なし)</u>
カリキュラム	集合21h, 通信講習0h 計21h(詳細カリキュラム表)
講習会の実施方法	カリキュラム(21時間)に基づき、都道府県バドミントン協会を主管として集合講習会により開催する。実際の実施計画については、公認バドミントン指導員(バドミントン4級)の養成状況を考慮し、都道府県バドミントン協会と都道府県体育協会とで相談の上、日本体育協会と本協会の承認を得て実施する。
検定試験の作成及び実施方法	検定試験は本協会普及指導開発部が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定によって総合判定する。
合格者の判定方法	合格者の判定は、検定試験の総合判定結果をもとに、本協会普及指導開発部が審査の上、原則として満点の6割以上を合格とする。
登録料(4年間)	14,000円(初回登録料のみプラス3,000円)
更新のための義務研修	資格登録有効期限4年間のうちに、(公財)日本バドミントン協会が定める研修を1回以上受講しなければならない。
担当委員会	(公財)日本バドミントン協会 普及指導開発部

資格の名称	<u>公認バドミントンコーチ (バドミントン2級)</u>
養成目的	競技者育成プログラムに基づき、都道府県内レベルで競技者の発掘・育成にあたる指導者を養成する。
役割	競技者育成プログラムの指針に基づいた指導にあたるとともに、広域エリア内の有望競技者の強化指導にあたる。また、各都道府県バドミントン協会における競技者育成システムの研究開発、実施に参画する。バドミントン競技指導員、上級指導員の育成指導にもあたる。
受講条件	受講年度の4月1日現在 22歳以上で、本協会公認審判員資格(3級以上)の取得者あるいは取得予定者で、下記1)、2)のいずれかに該当する者。 1) 公認バドミントン上級指導員(バドミントン3級)有資格者で都道府県バドミントン協会の推薦を受けた者 2) 各種全国大会ベスト32以上の競技成績を持つ者もしくは全国大会ベスト32以上の競技実績を持つ選手を直接指導した実績のある者 <u>(免除条件はなし)</u>
カリキュラム	集合51h, 通信講習10h 計61h(詳細カリキュラム表)
講習会の実施方法	カリキュラム(61 時間)に基づき、本協会が直接集合講習会と通信講習により開催する。実施計画については、日本体育協会と本協会との相談の上実施する。
検定試験の作成及び実施方法	検定試験は本協会普及指導開発部が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定によって総合判定する。
合格者の判定方法	合格者の判定は、検定試験の総合判定結果をもとに、本協会普及指導開発部が審査の上、原則として満点の7割以上を合格とする。
登録料(4年間)	16,000円(初回登録料のみプラス 3,000 円)
更新のための義務研修	資格登録有効期限4年間のうちに、(公財)日本バドミントン協会が定める研修を1回以上受講しなければならない。
担当委員会	(公財)日本バドミントン協会 普及指導開発部

資格の名称	<u>公認バドミントン上級コーチ (バドミントン1級)</u>
養成目的	ナショナルレベルで活躍できる競技者の育成・強化にあたる指導者を養成する。
役割	トップアスリートの育成・強化にあたるとともに、国際的な視野を持ち、本協会におけるナショナルチームの強化スタッフとして国際的な競技力向上策の研究開発、実施に参画する。また、バドミントン競技指導員、上級指導員、コーチの育成指導にあたる。
受講条件	受講年度の4月1日現在22歳以上。公認バドミントンコーチ(バドミントン2級)の資格取得者で、高い技能水準と優れた指導実績を持ち、本協会が認める者。 <u>(免除条件はなし)</u>
カリキュラム	集合20h, 通信講習20h 計40h(詳細カリキュラム表)
講習会の実施方法	カリキュラム(40 時間)に基づき、本協会が直接集合講習会と通信講習により開催する。実施計画については、日本体育協会と本協会との相談の上実施する。
検定試験の作成及び実施方法	検定試験は本協会普及指導開発部が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定によって総合判定する。
合格者の判定方法	合格者の判定は、検定試験の総合判定結果をもとに、本協会普及指導開発部が審査の上、原則として満点の7割以上を合格とする。
登録料(4年間)	16,000円(初回登録料のみプラス3,000円)
更新のための義務研修	資格登録有効期限4年間のうちに、(公財)日本バドミントン協会が定める研修を1回以上受講しなければならない。
担当委員会	(公財)日本バドミントン協会 普及指導開発部